



2013 冬号 NO.84

トピックス

神戸市

神戸市の河川観光スポット 布引の滝

近畿地方整備局

ふくい「味力」

大阪府

地域といっしょにつくり、備える

～大阪府における地域版ハザードマップ作成の取組み～

兵庫県

水辺を巡る ～冬の但馬路～

特集 平成25年台風18号





兵庫県マスコット ほばたん

ページ

トピックス

- 3 神戸市の河川観光スポット 布引の滝 …… A
神戸市建設局 下水道河川部 河川課 松延直幸
- 4 ふくいの「味力」…… B 近畿地方整備局 河川計画課 中辻 忠
- 6 地域といっしょにつくり、備える…… C 大阪府 都市整備部 河川室河川整備課 岡本歩
～大阪府における地域版ハザードマップ作成の取組み～ 岸和田土木事務所 矢野 定男
- 10 水辺を巡る ～冬の但馬路～ …… D 兵庫県 県土整備部 河川整備課 小田涼子

特集 平成25年台風第18号

- 12 特別警報の概要について 大阪管区气象台 気象防災部 予報課
- 14 近畿地方に猛威を振るった台風18号 近畿地方整備局 地域河川課 中村 大輔
- 18 台風18号に伴う大野ダムの防災操作…… E
京都府 建設交通部 河川課 谷口浩二
- 20 滋賀県における台風18号の被害について…… F 滋賀県 土木交通部 流域政策局 流域治水政策室 防災チーム 手塚聡
- 21 台風18号による被害と対応について…… G 福井県 土木部 河川課 竹内知憲



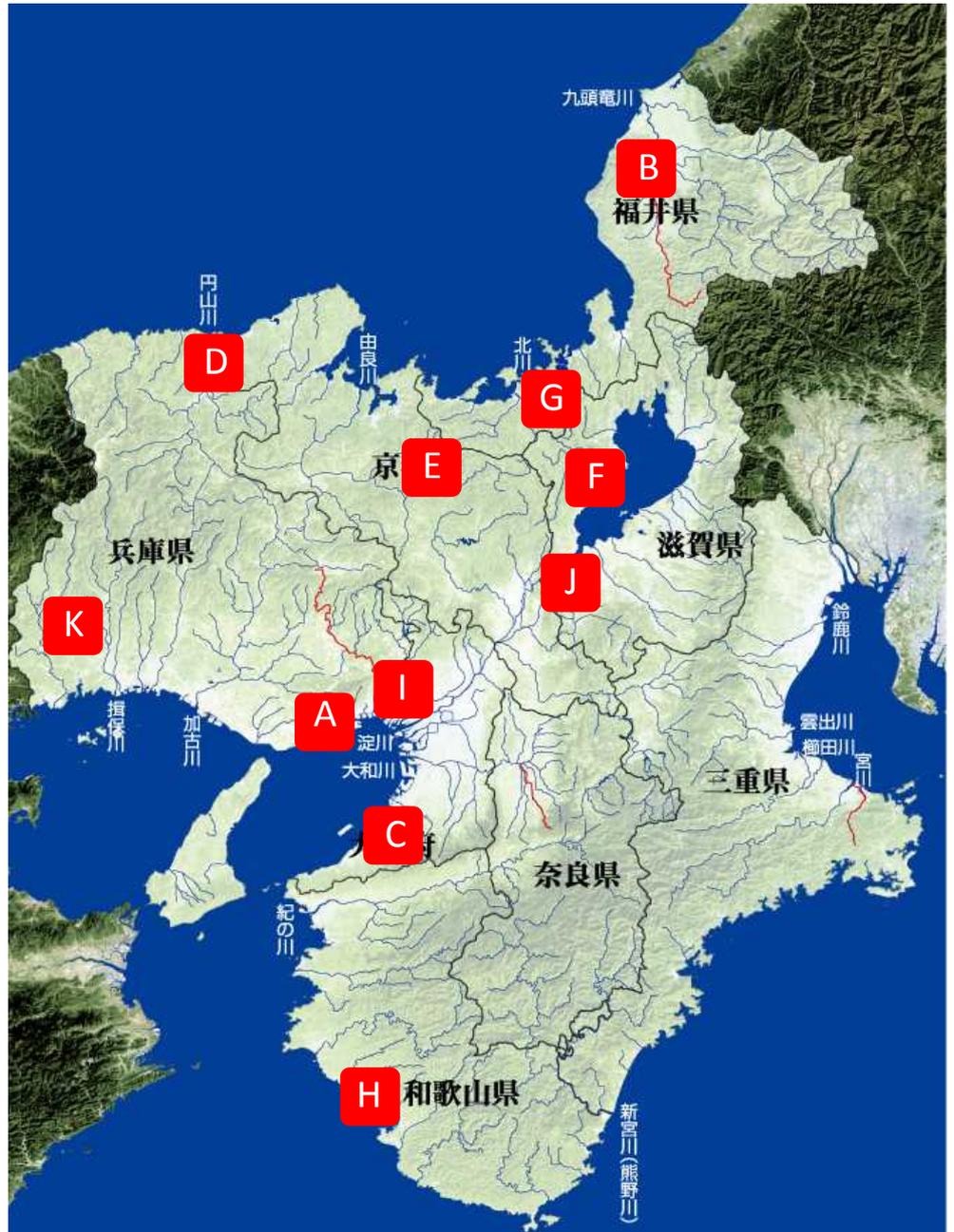
滋賀県マスコット キャップイー

INFORMATION

- 22 TEC-FORCE 活動(島根県西部豪雨) 近畿地方整備局 地域河川課 荘司 周夫
- 24 砂防学会シンポジウムの開催…… H 和歌山県 県土整備部 河川・下水道局 砂防課
- 26 猪名川水環境交流会を開催しました…… I
近畿地方整備局 猪名川河川事務所 調査課 横山 嘉則
- 28 近畿「子どもの水辺」交流会に行ってきました…… J
近畿地方整備局 地域河川課 今須 重明
- 30 金出地ダム定礎式を挙行…… K 兵庫県 県土整備部 河川整備課 三好 達士
- 32 維持管理に関する技術支援について 近畿地方整備局 地域河川課 西村 信彦
- 34 平成25年度近畿河川技術研修(ご案内) 近畿地方整備局 地域河川課 辻田 英幸
- 36 津波浸水想定における津波浸水深と基準水位について
近畿地方整備局 地域河川課 松岡 一成
- 37 イベント情報 ”雨といきもの展”を開催しています etc

表紙写真

近畿「子どもの水辺」交流会 in 滋賀 写真右「うみのこ」写真左「ピアンカ」
 この交流会は、次世代を担う子どもたちや地域住民のみならず方に「水辺」への関心・愛着を高めていただき、子どもたちの水辺活動の継続・広がりを図るとともに、上下流・府県間の交流など水辺に関わる方々の交流を深めるため、様々な視点から水辺との関わりや活動について発信していただく機会として開催しています。本交流会の運営にあたっては、近畿の各府県で水辺活動を行っている団体・市民並びに行政とのパートナーシップによる実行委員会を設立（平成19年8月6日）し、毎年、各府県持ちまわりにより交流会を実施しています。



※図中 A ~ K は記事の位置(河川)を示しています。



写真：「子どもの水辺」交流会の様子



神戸市の河川観光スポット 布引の滝

神戸市建設局 下水道河川部 河川課 松延 直幸

1. はじめに

神戸市内には、一級河川 4 河川、二級河川 72 河川、準用河川 136 河川、普通河川 236 河川の計 448 河川が流れています。今回はその中でも特に観光地としてにぎわいを見せている川の一つとして生田川水系の布引の滝をご紹介します。

2. 布引の滝の概要

布引の滝は、六甲山の麓を流れる生田川の中流（布引溪流）に位置し、上流から順に、雄滝、夫婦滝、鼓滝、雌滝の 4 つの滝からなる総称です。中でも雄滝は巖頭から 5 段に折れて落下しており、落差は 43m と 4 つの滝の中で最も大きな滝です。

布引の滝は、栃木県日光市の華厳滝・和歌山県那智勝浦町的那智滝とともに三大神滝とされ、日本の滝百選に選ばれています。

また、その歴史も古く、平安時代の歌集『伊勢物語』や『栄花物語』をはじめ、古くから宮廷貴族たちが和歌に詠むなど多くの紀行文や詩歌で紹介される文学作品の舞台となっています。

この布引の滝を含む「布引溪流」が、「市街地から数分のところに自然が残っている箇所として貴重であり、渓谷美がすばらしく、市ヶ原近辺の河原は四季を通じ行楽地としてにぎわっている。子供会、婦人会等から組織される“布引・市ヶ原を美しくする会”が保全活動を積極的に行っている。」として日本名水百選に選定されています。



雄滝

3. アクセス方法

布引の滝へは、JR 新神戸駅より北に徒歩 15 分程度でたどり着きます。また、道中はハイキング道として整備されており、自然を存分に楽しみながら歩くことができます。

また 4 滝の中で一番の見所である雄滝正面には、ウッドデッキとベンチが整備されており、滝を正面にハイキングの休憩をとることができます。雄滝付近には御茶屋もありこちらでも休憩を取りながら雄滝を眺めていただくことができます。

また、雄滝からさらに登ると、みはらし展望台が整備されています。この展望台からは、神戸の街並みを一望でき景色を楽しんでいただくことができます。また、夜になると日本三大夜景とも言われる神戸の夜景を見ることもできます。

4. 終わりに

今回は、神戸で最も有名な滝である布引の滝をご紹介しましたが、神戸市内には他にも沢山の滝があります。その中でも六甲山の有馬町にある七曲滝や百間滝などは真冬の寒い時期には凍る滝として知られています。また機会がございましたら、ぜひご紹介したいと思います。

神戸に来られた際には、街中から気軽に行ける布引の滝を始め、ハイキングを兼ねて季節によって楽しめる滝を探しにいかれてはどうでしょうか。



みはらし展望台からの景色



特集

みりよく 味の力

近畿地方整備局 河川部 河川計画課 中辻 忠

最近太ったと話す 近畿地方整備局の上平さん。その原因は... 福井県にあるみたいなので、近畿の北国 福井県に行ってきました。



これからの

福井の治水は私たちに任せろ!!

上段左から 福井県 川端 真治さん 近畿地方整備局 上平 拓弥さん 近畿地方整備局 中辻 忠 近畿地方整備局 松岡 一成さん 福井県 印牧 史人さん 福井県 山品 剛さん

下段左から 近畿地方整備局 葭川 真理さん 福井県 右馬 恭子さん 撮影場所 福井県庁ロビー

福井県庁の4人に質問です。それぞれの出身と福井県の見所を教えてください。

山品さん 私は嶺北の出身です。良い意味でも悪い意味でも雪が降るので、四季をはっきり感じられるところが良いですね。あと、ご飯がおいしいところも魅力です。今の時期は、越前ガ二が一番のおススメです。

川端さん 私は嶺北の勝山市出身で、恐竜博物館がオススメです。最近週末になると、京都や大阪ナンバーの車を良く見かけます。

印牧さん 私は嶺北の大野市出身です。地元の川ではアユ釣りが盛んです。また、水がきれいなので水道水は全て地下水で賄われています。嶺南の事務所時代は、猪や鹿の肉、秋には松茸をたらふく食べました。やはり、食べ物がおいしいところが良いですね。

右馬さん 私は嶺南出身です。嶺南には海水浴場が多くありますし、三方五湖等の自然もオススメです。



嶺南地方と嶺北地方の地域性を教えてください。

山品さん 雪の降り方が違います。嶺南は海が近いので嶺北に比べて雪の降り方が弱いです。

右馬さん 話し方も南と北で違いますよ。私以外の3人は福井弁です。

川端さん 私は勝山市出身ですが、奥越弁ですよ。奥越弁と福井弁は違います。

葭川さん 違いがあるなんてわかりませんでした。皆さん一様に語尾を伸ばされることと、語尾に『け』を付けることが特徴的ですね。また、早口で話される方が多いのも印象的です。早口なのに語尾を伸ばすので不思議に思いました。

山品さん 嶺北の人は早口だと嶺南の人が言っていました。きつく聞こえるようですね。

右馬さん 嶺南から遊びに出るとしたら京都か大阪になります。北に向いては行かないです。

川端さん 逆に嶺北は金沢に行きますね。向いてる方向が真逆なんで、文化や方言が少し違うのかもかもしれませんね。

福井河川国道事務所の2人に質問です。上平さん葭川さんは共に初めての赴任地が福井県ですが、その印象を教えてください。

上平さん 赴任して1年半がたちましたが、なんとと言ってもご飯がおいしくて太ってしまいました。最近力二も解禁になった

ので、さらに食の楽しみが増えました。係長になっても戻って来たいです。

葭川さん 大阪で生まれ育ったので、赴任地が福井県と知った時は驚きで思わず笑ってしまいました。赴任して半年ですが、私もご飯がおいしくて...。あと、車社会なので車の運転が荒い気がします。歩行者には優しくないですね(笑)。福井県の初めての印象は『空が青い!!』でした。



近年、都市部を中心に水辺整備が盛んに行われています。福井県での取り組みを教えてください。

川端さん 足羽川で水辺整備に取り組んでいます。しかし、自治体、地元の方々の協力がなかなか得られないのが現状です。地元のやる気に火を付けるのが大変です。昔、私自身が川で遊んだように、今の子供たちも川で遊ぶ楽しさを知って欲しいです。一方、福井豪雨で堤防が決壊した地域では、子供たちに『川に近づくな。川は怖い。』との教育をしていると聞いています。それでは子供たちの意識が川から離れてしまいますよね。

福井豪雨の思い出を聞かせて下さい?

山品さん 当時の自宅が足羽川ダムのダムサイトの中近くにあったのですが、豪雨で道路が崩壊して孤立集落になりました。職場に出てきたかったのですが、一週間ほど家から出ることが出来ませんでした。その後、職場に戻ってからは災害査定資料作りで大変でした。

川端さん 私も災害派遣で旧美山町へ行きました。手作業で図面を書いたことを思い出します。当時の現場は、人がいるのに指揮命令がバラバラで困惑しました。災害時に指揮命令を統率する難しさを感じました。

今回の台風18号でも、小浜土木事務所と敦賀土木事務所に県庁から応援を派遣しています。災害査定が終わる12月まで派遣と聞いています。

平成16年7月福井豪雨による洪水
福井県の嶺北地方を中心に18日の明け方から屋前の短時間に猛烈な雨が降り、足羽川左岸側では堤防が決壊した。



福井市春日付近



福井市春日 堤防決壊

■豪雪地帯としての強み、若しくは悩みを教えてください。

川端さん 出勤前の雪かきは毎年大変ですね。
上平さん 雪が降って楽しいのは3日目までで、だんだん辛くなります。夕方、仕事が途中で一度雪かきに帰ることもありました。工事現場では盛り土管理がしづらいと聞きます。他には、河川工事に協力いただけなかった地元住民の方の除雪を手伝うことで、協力いただけるようなこともあります。除雪で良いこともありますよ。
川端さん 逆に除雪作業で近所付き合いが悪くなることもありますかね(笑)。
山品さん 工事現場によって、比較的雪が少ない地域や河川の現場だと、冬場でも除雪すれば何とか工事ができますが、ダムのように山の中で特に雪が多い現場では、1・2・3月は工事が出来なくなります。もったいない期間ですね。

■近年の豪雪災害を教えてください。

上平さん 平成23年の豪雪では、さすがの福井県でもパニックになったと聞きます。道路を通行止めにする交代要員すら現地に辿り着けず、10時間連続で豪雪の中で作業したと聞いています。
山品さん その教訓を活かして、今では警報が出れば福井河川国道事務所「福井県道路情報連絡室」を置くようになりました。毎年冬の初めに県や国やその他関係機関が合同で模擬訓練を行っています。
上平さん 10月15日まで出水期で、11月20日から雪寒季。雨が終わったら雪。福井は休む暇が無いです

■福井県の課題を教えてください。

印牧さん 維持管理の資金不足が課題ですね。河川に限らず県の単独事業は、十分なお金を用意出来ていないのが現状です。現場から要望があってもなかなか対応できないこともあります。

■最後に、今の仕事でやり遂げたいことを教えてください。

上平さん 自分で発注した工事については、しっかり精算作業をやり遂げたいです。
葭川さん 今でも福井の地名がわからない時があるので、自宅に管内図を貼って勉強しています。更に福井のことを知って、一般の方からの電話対応をしっかりとこなしていきたいです。
右馬さん ダムの仕事を始めて半年が過ぎましたが、まだまだ分からないことが多いです。今年は勉強の年にしたいと思います。
山品さん 私は今まで5年間ダムに関わる仕事をしてきました。今後もダムに関する仕事を続けていきたいです。また、県のダム建設事業が終わる前に出先事務所に行って、ダムの現場にも関わられたらと思っています。
印牧さん これまでは、港湾、海岸、漁港と海関係の仕事に従事してきたので、河川の仕事はまだ勉強中です。将来は砂防系も含めた水系全体に詳しい存在になれたらと思います。
川端さん 河川の利活用をもっと促進していきたいです。川は自然の魅力をたくさん持った存在だと思います。住民の方々には、少しでもその魅力を知っていただけるように努力していきたいです。

～緊急調査～

福井県は、全国都道府県幸福度ランキングで1位を獲得。そこで最後に…

＜福井県の魅力教えてください＞

かねまき 印牧 史人さん

 水がきれい。
 お酒を味わってほしい！
 福井県庁 土木部 河川課
 河川改修事業を担当

川端 真治さん

 恐竜がアツイ。
 勝山市の観光スポット
 福井県庁 土木部 河川課
 河川の利用・環境に関することを担当

山品 剛さん

 人が適度に少ない。
 ストレスにならない。
 福井県庁 土木部 河川課
 ダム建設事業(吉野瀬川ダム)を担当

みぎうま 右馬 恭子さん

 嶺南は海水浴場とふぐがオススメ！
 福井県庁 土木部 河川課
 ダム建設事業(河内川ダム)を担当

上平 拓弥さん

 海の幸、山の幸が豊富
 ご飯がおいしい。
 近畿地方整備局 福井河川国道事務所
 工務課 河川改修事業を担当

よしかわ 葭川 真理さん

 いろいろあるけど…
 人が優しい。
 近畿地方整備局 福井河川国道事務所
 河川占用調整課 一般占用等を担当

インタビューを終えて

松岡 一成さん 近畿地方整備局 河川部 地域河川課 海岸、ダム建設・管理事業を担当
 福井県は私の趣味である、ダイビング、スキー、キャンプが楽しめるレジャー施設が多く、四季を通じて個人的に訪れる機会が一番多い県です。福井県で働いたことはありませんが、今回のインタビューで、雪国で環境が厳しいゆえの悩み、ただ、それを補ってあまりある恵みが、職場の連帯感等、色々な場面で実感できました。

最後に、唐突なインタビュー企画に対して、快く引き受けていただきました関係者のみなさまに、感謝いたします。

執筆中の中辻 貴重なお時間ありがとうございました。足羽川を事例とした水辺整備と防災教育の話が印象に残りました。福井県に限らず今後のまちづくりは、そのバランス感覚が非常に重要であると感じました。今回のインタビューで、福井県は「食の国」であり、その味力が人々を引きつけるとわかりました。次回はおあなたのまに。



地域といっしょにつくり、備える

～大阪府における地域版ハザードマップ作成の取組み～

大阪府都市整備部河川室河川整備課 岡本歩・岸和田土木事務所 矢野定男

大阪府では、府の管理する全154河川の洪水リスクの公表と、土砂災害防止法に基づく区域指定を進めるとともに、地区・自治会単位で「地域版ハザードマップ」を作成し、地域の警戒避難体制の構築につなげていく取組みを行っています。今回は、岸和田市で地域版ハザードマップを作成した事例を紹介します。

地域版ハザードマップ作成のためには、標準で4回のワークショップを開催しています。



☆ 地域版ハザードマップの特徴 ☆

- ✓ 地区・自治会単位を基本とし、各住戸が確認できる縮尺とする
- ✓ 過去の災害履歴や浸水箇所等を具体的に書き込む
- ✓ 住民自ら、「まち歩き」により必ず現地確認をして作成する
- ✓ 避難判断基準や伝達手段、緊急避難場所も検討する
- ✓ 避難訓練の実施も視野に入れる

第1回ワークショップ（地元説明会）

土砂災害について、土砂法に基づく区域指定の説明や、映像によるリスクの啓発

地元説明会では以下のような項目について説明します。

- 大阪府の水害・土砂災害対策の現状
- 地域の洪水リスク・土砂災害リスクについて
- 地域版ハザードマップの作成手順 等



洪水リスクについて、洪水リスク表示図を説明 (<http://www.river.pref.osaka.jp/>)

第2回ワークショップ

- 過去の被災箇所・出水しやすい箇所・避難場所等の確認
- 避難ルートの議論

府職員や防災士会の方々がコーディネーターになって、白地図から地域版ハザードマップ案を作成していきます。



地区ごとに分かれて作業を進めます



想定にとらわれないように、道路・河川だけを示した白地図から始めます

<<ワンポイント>>

☆行政側 ★住民側

☆行政の想定は参考と思って、議論してもらおう。

※想定にとらわれないで！

★地元では既に仮避難所を設定済み

※地元自らで個人宅を仮避難所に設定しています。自主避難の準備ができており、大変良い取り組みだと思いました。

☆避難時に役所職員と迅速にやり取りができるように役所職員もわかる図面にすべき。

※大阪府からの助言

★役所からの連絡を待たずに、地元で避難を判断すべき。

★岸和田市で初めての取り組みで、地域の意識が高まるのでありがたい。

(お礼を言われるとやっぱりうれしいです！)

第3回ワークショップ

- まち歩きの実施

地域版ハザードマップ案をもとに、まち歩きを実施します。危険箇所や避難ルート等、机上では気づかなかったことがたくさん発見されます。要援護者の家も確認します。



ハザードマップ案を持って、まち歩きスタート



危険箇所や避難ルートを現地で確認していきます

<<ワンポイント>>

☆行政側 ☆住民側

- ☆よく出水する谷筋などを確認し、平時の状況写真をマップに掲載する。
出水時の状況とマップの写真と比較することで、危険度が把握しやすい。
- ★地域と行政が情報を共有する。
また専門家の目でも現地を見てもらうことで、お互いの信頼感が生まれる。
- ☆平面的なマップではわかりにくい情報を、文章で加える。
たとえば、避難所である小学校でも2階に避難するなど。
- ★ため池の決壊が心配。
- ☆避難においては行政の枠は関係ない。
様々な関係機関が可能な限り情報を提供し、マップに反映させる。
※ため池については、府農林部局もまちあるきに参画し、その危険性を確認。
今後は堤防の耐震診断を実施していく予定。

第4回ワークショップ

- ハザードマップの確認
- 避難判断基準等の検討

まち歩きの結果を踏まえて、地域版ハザードマップを完成させます。
さらに、それをどう活用していくか、避難判断基準や伝達手段、緊急避難場所等について話し合っていきます。



地域版ハザードマップの完成だけが目標ではなく、
どう活用していくかを議論します。



地域版ハザードマップが完成

<<ワンポイント>>

☆行政側 ☆住民側

- ☆避難の判断や緊急避難場所は、行政だけに頼るのではなく、
地域のことを一番よく知る地域のみなさんが考えてほしい。
- ☆実際に避難することを想定した、「地域が必要とする情報」であるかを再確認。
- ★避難が完了した家庭は、玄関にタオルを巻くなどの工夫をする。
- ☆マップをつくること自体が目的ではなく、それを使った避難体制の確立によって、
地域防災力が向上する。
避難訓練なども検討してほしい。

地域主導の避難訓練の実施へ

実際に地域版ハザードマップが機能するのか？
避難訓練を実施して確認します。
行政主導ではなく、地域自らが防災・減災を考える、
地域主導の避難訓練でなければなりません。



地域の役員を対象とするも、
多数の住民が自主的に参加



避難所で住民の安否確認を実施

マップ、ハザードマップ...

自分たちで現場を歩いて、話し合いながら作成した地域版ハザードマップ。
自主的に訓練に参加する住民の方々が思いのほか多く、地区の役員の方も驚くほど。実際に訓練することで新たな課題も見つかり、早速、第2回の避難訓練を検討する声も上がりました。

行政が災害に関する情報を適切に提供し、住民自らが考えて動くという、
自助・共助の防災意識の高まりが感じられます。

地域版ハザードマップの取組み、 今後は岸和田市主体で進めていきます！



地元市が府の取組みを理解し、
今後は市が主体となって取り組んでいくことを約束してくれました！

「災害リスク情報の提供は河川管理者の仕事、ハザードマップの作成は市町村の仕事」と割り切っている、
なかなか災害への備えは前に進みません。

災害リスク情報と対処方法をセットで提供することで、地域の警戒避難体制は構築しやすくなります。

大阪府では、今後も積極的に地域へ足を運んでいきます！

水辺を巡る～冬の但馬路～

兵庫県県土整備部河川整備課 小田 涼子

はじめに

兵庫県はかつて摂津・播磨・但馬・丹波・淡路という五つの国からなり、それぞれに独自のすばらしい文化と風土をもっています。その中でも今回は、豊かな自然と温泉・味覚にめぐまれた魅力あふれる但馬の国を家族三人で巡ってきました！その魅力のほんの一部ですが、水辺を中心に紹介させていただきます。

ぜひ、皆様にも冬の但馬を体験し心温まる思い出を作っていたいただきたいと思います。

コウノトリ翔る郷・豊岡～円山川～

豊岡で30年ぶりに水生昆虫のタガメ発見！（10月19日）との新聞記事に昆虫好きの息子が興味津々…。というわけで、まずは円山川下流域にある「豊岡市立ハチゴロウの戸島湿地」を訪れました。

この湿地は、海・河川・潟・水田・山が隣接し希少な生きものや植物にあふれており、コウノトリの生息拠点になっています。また、円山川下流域及び周辺水田は平成24年にラムサール条約湿地として登録されたことでも知られています。

この日は、管理棟から雌のコウノトリを観察した後、周辺の湿地でさっそく生きもの調査！息子がたも網を使って何度も水中をすくい、ヤゴ、メダカ、スジエビ、おたまじゃくしを見つけました。



残念ながらお目当てのタガメは見つかりませんでした。管理所の方々にとても親切にいただき、充実した時間を過ごすことができました。但馬の自然と人の温かさを実感し、心満たされるひとときでした。



息子と「夏にまた来ようね」と約束し、この地をあとにしました。



城崎温泉～大谿川～

戸島湿地から円山川を渡るとすぐ近くに城崎温泉街があります。

1300年以上の歴史をもつ城崎温泉は、街の中心を流れる大谿川沿いに7つの外湯と多数の温泉宿やみやげ物店が軒を連ね、とても情緒ある街並です。



約10年ぶりにこの地を訪れましたが、おしゃれなカフェやソフトクリーム店が増えていて驚きました。

温泉に入り、大谿川沿いを散策し、小腹がすいたら但馬牛まんや但馬牛コロッケ、ソフトクリームを食べたり、温泉卓球を楽しんだり…旅行気分を満喫です。

さらに、11月6日から3月末ごろまでは、まさにカニシーズン！ブランドの津居山ガニなど、新鮮で贅沢な味を楽しむことができます。

その後、香住・但馬海岸の絶景や余部鉄橋を車中から眺め新温泉町の湯村温泉へと向かいました。



湯村温泉～春來川～

NHKのテレビドラマ「夢千代日記」の舞台として知られる湯村温泉。その中心には春來川が流れており、川のほとりで足湯につかりくつろぐことができます。

また98℃の高熱の温泉が湧き続ける荒湯では、常に湯けむりがたっています。

ここでももちろんカニを楽しむことができますが、我が家の定番は湯村温泉＝但馬牛！温泉近くで但馬牛ステー

キを食べた後、春來川沿いの湯けむりの中を散歩し夢千代像を見てから、生たまごを温泉につけて温泉たまごを作りました。

満腹になったところで、帰路につき、但馬への小旅行が終了しました。ほかにもいっぱい行きたいところがあったのですが、何せ但馬は広いので、またのお楽しみに…。



おわりに

平成 12 年からの三年間を過ごした豊岡を久しぶりに訪れ、懐かしい気持ちとともに月日の流れを随所で感じる一日でした。

平成 16 年に但馬地方を襲った台風被害から 9 年。当時は、思い出の地が大変なことになっていると知り、少しでも力になりたいと、ボランティア休暇をとって浸水した集落の片付けをお手伝いさせていただきました。私と同じ気持ちでボランティアに来ている職員がたくさんいたのを覚えています。

元気で安全・安心な社会の実現に向け、行政職員として、また一県民として何ができるのか、今後も考え続けていきたいと思います。

アクセス

- 城崎温泉
(電車) JR山陰本線特急・城崎温泉駅下車
(車) 北近畿豊岡自動車道和田山 IC→国道 9 号→国道 312 号
- 豊岡市立ハチゴロウの戸島湿地
豊岡市城崎町今津 1362 番地 ☎0796-20-8560
城崎温泉街から城崎大橋を渡ってすぐ
- 湯村温泉
(電車) 山陰本線特急・浜坂駅下車→全但バス・湯村温泉
(車) 北近畿豊岡自動車道八鹿氷ノ山 IC→国道 9 号



©兵庫県 2007

大阪管区气象台 気象防災部 予報課

気象庁ではこれまで、大雨・地震・津波・高潮などにより重大な災害が発生するおそれがある場合に警報を発表し、警戒を呼びかけてきました。これに加え、平成25年8月30日からは、この警報基準をはるかに超える豪雨や大津波等が予想され、重大な災害の危険性が著しく高まっている場合、新たに「特別警報」を発表し、最大限の警戒を呼びかけることとしました。



特別警報とは、「数十年に一度」クラスの大雨や暴風などが予想されるなど、重大な災害の危険性が著しく高まっている場合に発表するものです。(詳しくは、気象庁ホームページ【<http://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/tokubetsu-keiho/kizyun.html>】をご参照ください。)

特別警報が対象とする現象は、18,000人以上の死者・行方不明者を出した東日本大震災における大津波や、我が国の観測史上最高の潮位を記録し、5,000人以上の死者・行方不明者を出した「伊勢湾台風」の高潮、紀伊半島に甚大な被害をもたらした、100人近い死者・行方不明者を出した「平成23年台風第12号」の豪雨等が該当します。

特別警報が発表された場合、お住まいの地域は数十年に一度しかないような非常に危険な状況にあります。周囲の状況や市町村から発表される避難指示・避難勧告などの情報に留意し、ただちに命を守るための行動をとってください。大雨特別警報の場合を例に挙げると、周囲の安全を確認しながら指定された避難所へ避難するか、既に周辺で浸水や土砂崩れが発生しているなど外出することが危険な場合には、家の中の安全な場所(斜面の付近にお住まいの方は斜面と離れた部屋へ、浸水している状況では2階以上へ、など)に移動しましょう。また、状況の変化に応じて適時適切に対応するため、テレビやラジオ、インターネット、府県・市町村からの配信メールなどを利用して常に最新の情報を収集することも非常に重要です。

さらには、特別警報が発表されないからといって安心することは禁物です。大雨などにより重大な災害が発生するおそれがある時には、従来どおり警報が発表されますので、最新の情報をもとに早めの対応をとることが肝要です。

平成 25 年 9 月 15 日から 16 日には、台風第 18 号に伴い九州から北海道にかけての広い範囲で大雨や暴風となり、滋賀県で 7 地点、京都府で 6 地点のアメダスで 48 時間降水量（速報値）が観測史上 1 位を更新するなど、これらの府県を中心にこれまでに経験のないような大雨となりました。この大雨により、16 日 5 時 5 分には、運用開始後全国で初めて「大雨特別警報」を、京都府・滋賀県・福井県に発表しました。

気象庁では、今後も災害が発生するおそれのある場合には、注意報・警報・特別警報により注意・警戒を呼びかけます。これらを含めて段階的に発表する防災気象情報、特別警報を活用し、これまで数十年大きな災害が発生していないような地域でも決して油断することなく、早め早めの行動をとるようお願いいたします。

普段から…

気象情報・空の変化に注意

大雨になるおそれ
雨が降り出す



ハザードマップ



Point
備えは大丈夫？

- ・ 周りより低い場所など、危険箇所を把握
- ・ 避難場所や避難ルートを確認しておく

雨が強くなると…

注意報

**最新の情報に注意して、災害に備えた早めの準備を
雨・風の影響を受けやすい地区・避難困難者は早めの行動！**





- ・ 気象情報や外の様子に注意
- ・ 非常用品や避難場所、避難ルートを確認
- ・ 災害に備えて、家の外の備えを点検

大雨が降り続けると…

警報

自治体が発表する避難に関する情報に注意し、必要に応じ速やかに避難







Point
特別警報が
発表されていなくても
早め早めの行動を！



さらに激しい
大雨が続くと…

非常事態

特別警報

ただちに命を守る行動をとる

**市町村からの避難勧告等に従い直ちに避難所に避難！
外出が危険なときは、家の中で少しでも安全な場所に移動**





Point
冷静な判断が大事です
周囲の状況に応じた行動を！



洪水の中は避難所
非常に危険！

「住居の位置」や「住居の構造」、「既に浸水が生じている状況なのか否か」によって「自宅外避難」の必要性は異なりますので、冷静な判断が重要です。災害から命を守ることができる行動を考えておきましょう。

近畿地方に猛威を振るった台風18号

近畿地方整備局 地域河川課 中村 大輔

1. 気象概要

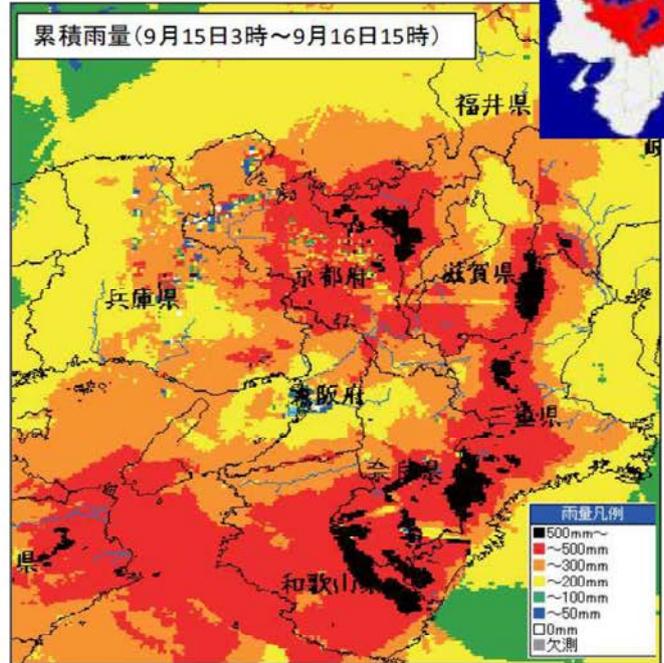
平成25年9月13日3時に小笠原諸島近海で発生した台風18号は、16日8時前に暴風域を伴って愛知県豊橋市付近に上陸し、その後、関東地方から東北地方を通過し、16日21時に北海道の東で温帯低気圧となりました。

台風の接近に伴い近畿地方では、日本海から北日本にのびる前線や、湿った空気が次々と流れ込んだため、長時間にわたって強い降雨がもたらされ、北部や東部、紀伊半島南部などを中心に記録的な大雨となりました。このため、福井県、滋賀県、京都府に本年8月30日の運用開始以来、始めて大雨特別警報が発表されました。

2. 被害状況

この台風の影響により、近畿地方整備局管内の直轄河川では、4河川で計画高水位、5河川でははん濫危険水位、4河川で避難判断水位を超過し、沿川の住民約43万人に避難指示、約76万人に避難勧告が発令されました。由良川や桂川、宇治川、北川、加古川、大和川、相野谷川では越水等により約2,000戸の家屋が浸水し、中でも由良川と桂川で大きな被害が発生しました。

特別警報発令



直轄河川の越水等による浸水状況



類型	水系	河川	発令状況	
			世帯数	人数
避難勧告	新宮川	相野谷川	291	605
	由良川	由良川	63,285	140,165
	淀川	桂川	50,471	129,072
	淀川	宇治川	22,088	50,556
	北川	北川	16,734	46,692
	加古川	加古川	21,122	50,804
	大和川	大和川		341,000
合計			173,700	758,289

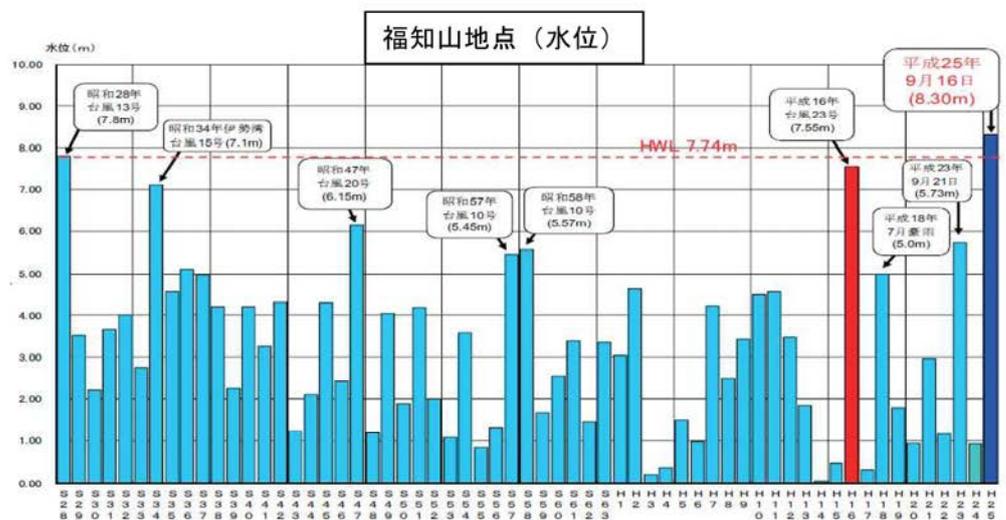
類型	水系	河川	発令状況	
			世帯数	人数
避難指示	新宮川	相野谷川	623	1,232
	由良川	由良川	38,204	87,496
	淀川	桂川	101,042	247,346
	淀川	宇治川	38,859	90,844
	加古川	加古川	101	303
	合計			178,829

■直轄管理の沿川市町村における避難指示及び避難勧告状況(速報値)

(1) 由良川

由良川では、福知山地点(基準地点)上流域の流域平均総雨量が河川整備計画の対象としている1959年(昭和34年)の伊勢湾台風を上回り、福知山地点では、計画高水位を上回る観測史上最高水位を記録しました。2004年(平成16年)の台風23号でも由良川は

大きな被害が発生しましたが、福知山市街地から綾部市にかけての中流域では、これを上回る水位を記録し、中下流域で家屋浸水1,622戸の甚大な被害が発生しました。



(2) 桂川

桂川の嵐山地区でも、一時は渡月橋の橋面を洪水が乗り越え、2004年の台風23号の被害を越える93戸の家屋浸水が発生し、周辺の旅館やみやげ物店にも甚大な被害が発生しました。



また、下流の羽束師^{はづかし}地点でも、計画高水位を上回るとともに、観測史上最高水位を記録しました。(1958年(昭和28年)の台風13号による出水以降、60年間に計画高水位を12回超過していることから、平均すると5年に一度は計画高水位を超過していることになります。)このため、桂川右岸7.2km付近では、16日の7時過ぎから堤防を越水し始め、93戸の家屋が浸水しましたが、水防事務組合や自衛隊による懸命の水防活動により、堤防決壊という最悪の事態を免れることが出来ました。

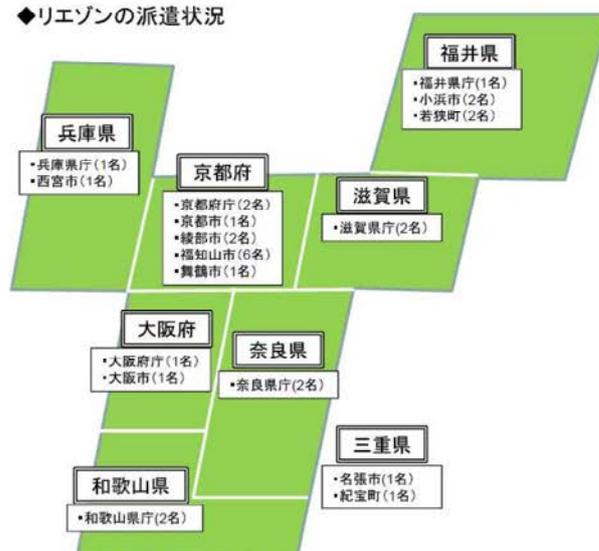


3. 自治体への支援

(1) リエゾン※1、TEC-FORCE※2の派遣

府県管理河川でも、野木川（北川水系：福井県）、鴨川、金勝川（以上 淀川水系：滋賀県）、本梅川（淀川水系：京都府）で堤防決壊が発生しました。また、各地で土砂災害により家屋崩壊や道路の通行止めなど甚大は被害が発生しました。そのため、近畿地方整備局では、台風接近前の15日からの分も含め、管内の17自治体に延べ29名・日のリエゾンを派遣し、情報収集や災害応急対応等に対する助言を実施しました。

◆リエゾンの派遣状況



また、全国の地方整備局（北陸、中部、中国、四国、九州、近畿）から延べ1,179名・日（10月8日現在のTEC-FORCE等を被災した自治体に派遣し、河川や砂防、道路等の早期の復旧・復興に向けて、被災状況調査、復旧工法の技術支援が行われました。



更に、大規模被災箇所には国土交通省の専門家チームの派遣により、現地での技術的指導や助言が行われました。

リエゾン※1 (Liaison 仏語「つなぐ」) の意味

災害対策現地情報連絡員のことで、地震・水害・土砂災害等の大規模自然災害の発生時に、地方公共団体へ職員を派遣し、災害情報等の情報収集、災害応急対策の支援等を行うもの。

TEC-FORCE※2 (緊急災害対策派遣隊 Technical Emergency Control Force)

大規模自然災害が発生し、又は発生するおそれがある場合において、被災地方公共団体等が行う災害応急対策に対する技術的な支援を円滑かつ迅速に実施することを目的としたもの。

(2) 災害対策用機械の派遣

自治体からの要請を受け、近畿地方整備局等が保有する排水ポンプ車や証明車などの災害対策用の機械を延べ185台・日派遣しました



内水はん濫箇所への排水ポンプ車の派遣

延べ出動台数 (9/15～)		
機械名	延べ台数	実台数
排水ポンプ車	55台	30台
照明車	108台	27台
対策本部車	10台	2台
待機支援車	2台	1台
衛星通信車	2台	1台
分解組立型BH	8台	2台
計	185台・日	63台

注) 本報告で用いた数値等は速報値であり、今後の精査により変更する場合があります。

台風18号に伴う大野ダムの防災操作

京都府建設交通部河川課 谷口浩二

1. はじめに

平成 25 年 9 月 15 日から 16 日にかけての台風 18 号がもたらした豪雨では、我が国で初めて数十年に一度の被害発生が予測される「特別警報」が出され、避難指示の対象は京都府内全体で一時 43 万人に及び、平成 16 年台風 23 号の総雨量を超える記録的な豪雨を京都府全域にもたらし、由良川水系、淀川水系桂川、宇治川、木津川流域で甚大な被害が発生しました。特に、由良川水系では平成 16 年台風 23 号による最高水位を超える洪水が発生し、福知山市等では、ここ 9 年間の間に 2 度も甚大な被害を被っています。

2. 由良川での洪水状況

由良川水系においては、台風 18 号により基準点である福知山地点の流域平均総雨量が河川整備計画の対象としている昭和 34 年洪水を超え、流量についても福知山地点で昭和 34 年洪水を超える流量を観測しました。平成 16 年台風 23 号洪水と比較すると、中流部（福知山上流）では水位・流量とも上回る状況でした。



(国交省HPより)

3. 大野ダムの概要

大野ダムは、京都府の中・北部を流れる由良川の上流部に位置し、由良川下流域の洪水被害の軽減及び水力発電を目的に、国が建設し、昭和 36 年に完成、昭和 37 年 4 月から京都府が管理している多目的ダムで、堤高 61.4 メートル、堤頂長 305.0 メートル、総貯水容量 2,855 万立法メートルの重力式コンクリートダムです。



大野ダム

4. 大野ダムの防災操作概要

平成 25 年 9 月 15 日から 16 日にかけての台風 18 号により由良川水系大野ダムの流域では、1 時間雨量で最大 33.7mm、降り始めからの総雨量は 348mm を観測しました。この降雨により大野ダムへの最大流入量は毎秒 1,717 立法メートルに達し、大野ダムの管理開始（昭和 37 年 4 月）以降、最高貯水位となる EL175.37m（サーチャージ水位：EL175.0m）を記録しました。

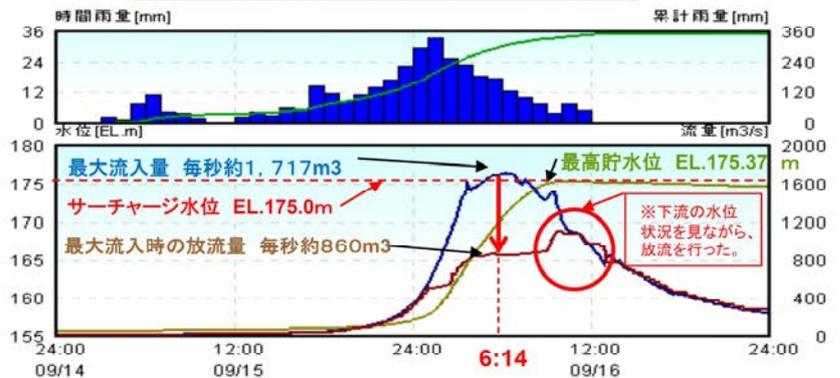
大野ダムでは、流域全体の安全を確保する観点から操作を行うことで、約 2,198 万立方メートル（京セラドーム大阪約 18 杯分）の水をダムに貯留し、下流の河川へ流す水量を最大で毎秒約 860 立法メートル（約 5 割）低減しました。

この結果、国土交通省の試算によると、綾部地点において水位を約 60 cm 低減する効果を発揮し、下流の床上浸水被害を約 3 割程度低減したと推察されます。

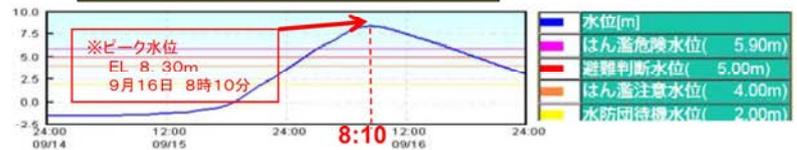


(最高貯水位 EL.175.37m)

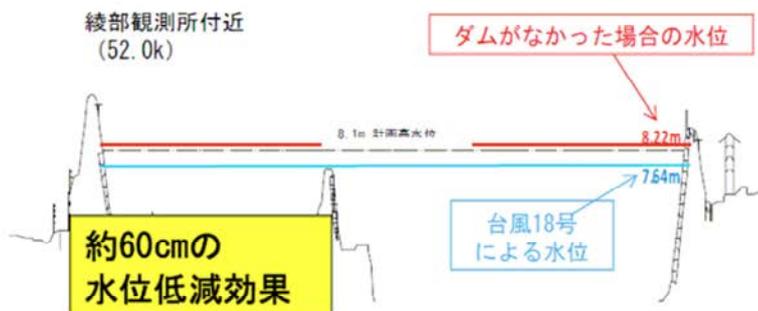
【大野ダム】降雨量／流入量・放流量



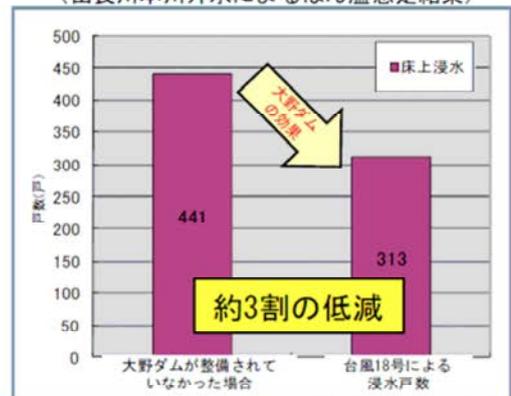
【由良川水位】福知山(国)地点



大野ダムによる綾部地点での効果は、試算で約60cmの水位低下効果があり、計画高水位を下回ったと推定。



床上浸水家屋数の比較 (由良川本川外水によるはん濫想定結果)



※国土交通省による試算

(国交省HPより)

滋賀県における台風 18 号の被害について

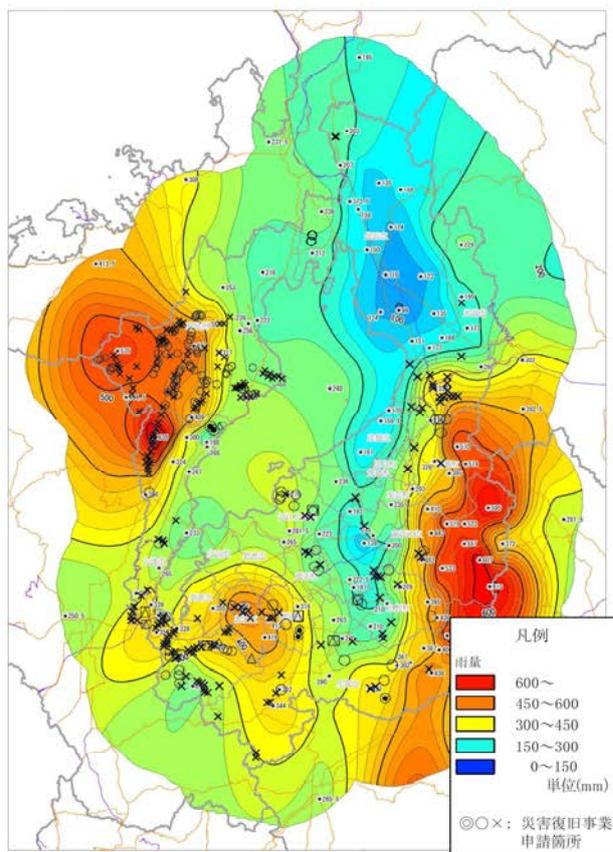
滋賀県土木交通部流域政策局流域治水政策室防災チーム 手塚 聡

平成 25 年 9 月 15 日から 16 日にかけて接近した台風 18 号により、この台風を取り巻く雨雲や湿った空気が次々と流れ込んだため本県では記録的な大雨となり、16 日 5 時 5 分には本県に大雨特別警報が発表されました。

大津市葛川では時間 30mm 以上の激しい雨が 9 時間継続し、総雨量 635mm（15 日 5 時～16 日 12 時）を記録するなど、県内各地で激しい雨が長時間継続しました。（図 1）

この降雨に伴い河川水位も急上昇し、本県が管理する水位観測所のうち 7 割では氾濫注意水位を超える水位を観測して、全県的な災害発生の様相を呈しました。

このうち、高島市を流れる鴨川では、16 日明け方に宮野地先の右岸堤防が約 150m に渡って破堤し、氾濫流により床上浸水 67 戸、床下浸水 109 戸（速報値）が発生し、逃げ遅れた方の救出に自衛隊の出動を要請するなど、大きな被害を受けました。（図 2）



雨量出典：滋賀県土木防災情報システム、気象庁

図 1. 9 月 15 日～16 日にかけての雨量分布



図 2. 鴨川破堤地点および応急復旧状況

この他、市町あわせて 311 箇所では災害復旧事業への申請を検討しており、被害額は約 55 億円を見込んでいます（9 月末時点）。本県では平成 6 年以来の被害額であり、このような災害を経験したことのない職員が多い中、近畿地整はじめ近隣府県の皆様のご助力をいただきながら応急復旧・災害査定準備に奔走しています。

今後も引き続き、一刻も早い被災箇所の復旧を目指して災害復旧事業を推進して参ります。

台風 18 号による被害と対応について

福井県 土木部 河川課 竹内 知憲

1. はじめに

平成 25 年 9 月 15 日から 16 日にかけて、福井県では嶺南地方を中心に台風 18 号による記録的な集中豪雨に見舞われ、16 日早朝には滋賀県、京都府とともに全国で初となる大雨特別警報が発表されました。

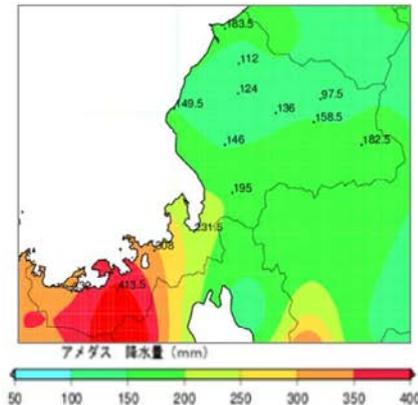


図-1 総降水量分布図 (9/15 ~ 9/16)

アメダス地点名	総雨量 (mm)
三国	183.5
春江	112.0
越前	149.5
福井	124.0
美山	136.0
武生	146.0
大野	158.5
九頭竜	182.5
今庄	195.0
嶺南地方	
敦賀	231.5
美浜	308.0
大飯	339.0
小浜	413.5

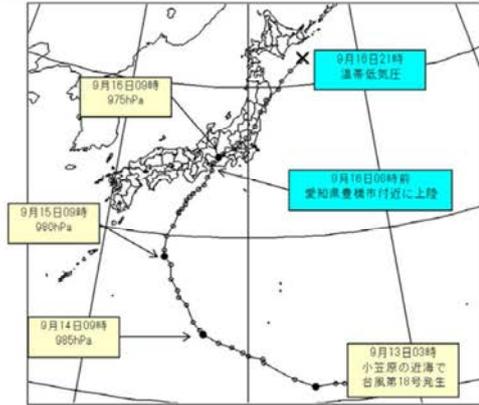


図-2 台風経路図

2. 被害の状況

図の出典：平成 25 年台風第 18 号に関する福井県気象速報(福井地方気象台)

今回の大雨により、嶺南地方の各地で河川の氾濫や土砂災害などが発生し、1 名の方が亡くなられたほか、住家の被害は 412 棟に及んでいます。(平成 25 年 11 月 2 日現在)

河川被害については、野木川における破堤や三方五湖における溢水をはじめ、護岸崩壊など約 250 箇所が発生しました。

人的被害		1
住家被害	全壊	5
	半壊	2
	一部損壊	9
	床上浸水	76
	床下浸水	320
計		412

表-1 被害状況



写真-1 破堤状況 (野木川)



写真-2 溢水状況 (三方湖)

3. 復旧に向けて

台風 18 号による河川等の公共土木施設に対する災害査定は 11 月 25 日より始まる予定であり、査定決定を受けた箇所は速やかに復旧工事を進められるよう最善を尽くす所存です。

なお、破堤した野木川においては、災害復旧事業に合わせて災害対策緊急事業推進費を要求しており、次号にて詳細を報告させていただきたいと考えています。

また、三方五湖では湖水位上昇に伴う浸水被害を防止するため、治水対策を早期に取り組めるよう、河川整備基本方針および河川整備計画の策定に向けた協議を進めていきます。

4. おわりに

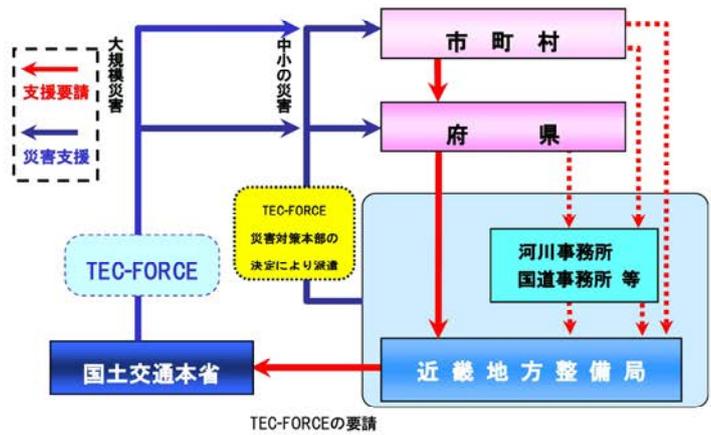
今回の大雨では、国土交通省をはじめ、関係機関の皆様からご支援をいただき、深く感謝いたします。復旧に向けた取り組みはこれからが本番ですが、今後も関係機関と連携しながら、地域の安全・安心が確保できるように取り組んでまいります。

近畿地方整備局 地域河川課 荘司 周夫

1. はじめに

TEC-FORCE とは、「Technical Emergency Control Force」の略で、大規模自然災害が発生し、又は発生する恐れがある場合に、被災地方公共団体等に対して、円滑かつ迅速に災害対応の支援を実施することを目的として、平成 20 年度に創設された国土交通省緊急災害対策派遣隊です。

その活動内容は、被災状況の調査、災害緊急対応（緊急輸送路の確保、緊急湛水排除）、被災地方自治体の支援（リエゾンの派遣、衛星通信車等の派遣による通信網確保、災害復旧に関する技術指導や助言）、二次災害の防止（応急対策の立案・実施、被災箇所危険度の危険度予測）等です。



2. TEC-FORCE 活動（島根県西部豪雨）

近畿地方整備局では、平成 25 年 8 月 24 日の集中豪雨により、島根県西部において災害が発生したことを受け、TEC-FORCE の第 1 陣として、指揮班 1 班、河川班 2 班、道路班 1 班、広報班 1 班、総務班 1 班の計 13 名を派遣（8 月 26 日～8 月 30 日）し、島根県浜田市を中心とした被災状況調査に入ることとなりました。

8 月 26 日に近畿地方整備局前での出陣式の後、島根県浜田県土整備事務所に向け出発しました。

第 1 陣の中で、私は河川 1 班の班長として任務にあたることとなりました。河川班の主な任務は、島根県浜田市の金城地区北部で発生した河川や道路の施設の被災状況を調査し、被災調査報告書として取りまとめることです。



島根県西部豪雨(被災地域)



出陣式に集結した近畿地方整備局のTEC-FORCE 13名

まず、現地に到着し、浜田市の担当者から被災概要として、地元の情報を基に作成された被災箇所をの平面図を見せられ、被災箇所があまりにも広範囲に点在しており、とても我々に与えられた期間内で全てを調査することは不可能であると感じました。そこで、河川・道路に関係なく、短期間でいかに効率的に調査を行うことが重要であるかと考え、調査箇所の優先度を市の担当者と調整し、調査箇所を絞り込むこととし、さらに、土地勘が全くない我々のみで平面図を頼りに作業を進めていくことは非効率であるため、浜田市の方に同行していただくことで現地行程の無駄を省くこととしました。河川1班の調査箇所は、全て市道の被災箇所となり、道路の山側法面の崩落、谷川法面の崩落、道路自体の崩壊等、大規模なものから小規模なものまで様々な状況でした。

具体の作業内容としては、日中は被災状況調査（外業）として、簡易な測量や写真撮影等を行い、夕方からは内業として、外業でのデータを基に被災概要から概算被害額の算定までを所定の様式にとりまとめることです。

1班3人体制という最小限の体制でしたが、それぞれが使命感や緊張感を持っていたせいも、自然と阿吽の呼吸により役割分担が構築されていきました。3人の協力の下、最終日の前日には最終目標である報告書を取りまとめることが出来、8月30日に浜田市長へ被災調査報告書（全体で142路線36箇所、3河川7箇所）を提出することが出来ました。浜田市長さんより、数多くの感謝のお言葉をいただきましたが、なかでも「中国地整さんとは普段お付き合いしているが、近畿地整さんにお世話になるとは思わなかった」と言われた言葉がとても印象的でした。

3. おわりに

島根県西部豪雨以降、近畿地方整備局管内においても、台風18号の豪雨による甚大な被害が発生しているところです。このような脆弱な国土のインフラ整備を着実に進めていくことは災害の予防策としてとても重要ですが、その過程において毎年のように全国各地で災害が起こっているのが現状です。このような状況の下、今後もTEC-FORCE 隊員として地域のお役に立てればと思っております。

最後に、被災地域の災害復旧が一日も早く進みます事をお祈りしています。



被災箇所の調査(道路)



調査後の打ち合わせ



被災調査報告書



近畿地整の隊長から浜田市長へ成果の引渡し

砂防学会シンポジウムの開催

和歌山県 県土整備部 河川・下水道局 砂防課

1. はじめに

第45回(公社)砂防学会シンポジウムが平成25年10月8日に和歌山県田辺市紀南文化会館で開催されました。県砂防課では実行委員会の運営事務局として運営に協力をいたしました。

和歌山県田辺市では、平成23年台風12号による土砂災害により8名の方の尊い命が奪われました。和歌山県全体では56名の人命が失われ、このうち35名の方が土砂災害によるものでした。

このシンポジウムは、災害に対する警戒・避難、被災プロセス、災害後の対策、復旧・復興策などの問題点について、台風接近から現在に至るまで時系列的に振り返り、同様の災害の対策に資するような情報を共有することを目的に開催され、全国の砂防、治山分野の研究者や行政担当者、関係団体及び民間企業の関係者約300人にご参加いただきました。



(田辺市熊野地区)

2. 開会式・基調講演

実行委員長(藤田正治・京都大学防災研究所教授)の開会挨拶を皮切りに、真砂充敏田辺市長が開会地を代表して祝辞を述べられ、引き続き本シンポジウムのテーマ「平成23年紀伊半島大水害を振り返って」に沿って、被害と復旧・復興状況、土砂災害では初めてとなった災害対策基本法による警戒区域の設定や災害から得た教訓等について講演が行われました。



(田辺市三越地区)

3. 話題提供

引き続き、テーマに沿って下記5題の話題提供が行われました。

- ①「平成23年台風12号と気象予測」 三浦郁夫(和歌山地方気象台長)
- ②「平成23年紀伊半島大水害における土砂災害防止法にもとづく緊急調査の実施について」 石塚忠範(独)土木研究所土砂管理研究グループ火山・土石流上席研究員)
- ③「工事が困難な状況下での天然ダム対策工事～栗平地区河道閉塞緊急対策工事～」 大塚康之(大成建設株式会社関西支社栗平作業所長)
- ④「平成23年9月台風12号により発生した大規模土砂災害の対策について」 桜井亘(国土交通省近畿地方整備局紀伊山地砂防事務所長)
- ⑤「土砂災害の教訓と復旧・復興」 千東圭央(和歌山県県土整備部河川・下水道局砂防課長)

4. パネルディスカッション

藤田実行委員長をコーディネーターとして、真砂市長と話題提供者によるパネルディスカッションが行われました。「気象予報技術の課題とそれを踏まえた活用について」、「大規模災害多発時の必要な情報収集や対策の問題点と改善策について」、「天然ダム対策の工事で苦労した点、推進工法による暗渠排水工の新たな可能性や今後必要な技術革新について」等が議論され、会場からは「恒久対策を見据えた応急対策の考え方」、「地域的な降雨の降り方」等について質問がありました。



(那智川)

5. 現地見学会

シンポジウム開催の翌日（10月9日）には、台風12号により土砂災害が発生した田辺市熊野地区、三越地区など、復旧対策が行われている現地を約100名が見学しました。2日目（10月10日）には、被害を受けた世界遺産熊野那智大社や那智川上流部の見学を行いました。各現場では担当している国土交通省近畿地方整備局紀伊山地砂防事務所の桜井所長や県の担当者から、流域の概要、被災状況と復旧の経緯及び現状、今後予定される対策等について説明を受けました。また、熊野那智大社では朝日宮司から災害時の状況等の説明を受けました。あいにく初日は日本海を進んだ台風24号の影響により、かなりの降雨に悩まされましたが、各現場では参加者との活発な議論が交わされました。



6. おわりに

今回のシンポジウムは、「平成23年紀伊半島大水害」で大きな被害を受けてから約2年が経過した田辺市での開催となりました。国・県・市・工事業者等関係機関が復旧・復興に向けて努力してきた経緯とその対策、また解決に向けての更なる検討課題について話題が提供され、議論が深めることができ、今後の大規模土砂災害対策を考えるうえで大変有意義なものとなりました。本シンポジウムが住民のための行政施策、研究発展の成果となることを期待しています。

最後に、シンポジウムの開催にあたり、後援、協賛をいただいた団体関係者及び、田辺市並びに参加された皆様のご協力に感謝いたします。



(写真：上から、現地見学状況（熊野地区・三越地区・那智川支川陰陽川）、熊野那智大社被災直後の状況）

1. 「神崎川水質汚濁対策連絡協議会 猪名川分科会」の概要

「神崎川水質汚濁対策連絡協議会 猪名川分科会」は、より良い猪名川の水環境の実現を目指して、住民と行政が一体となった取り組みを進めるため平成 22 年 2 月に設立され、猪名川流域の水質管理の方向性と 3 つの基本目標の達成に向け、「水質一斉調査(写真-1)」「水環境パネル展(写真-2)」「猪名川水環境シンポジウム」など、情報の発信や共有、意識啓発活動を行っています。

猪名川分科会は、猪名川流域の 2 府県 10 市町と河川管理者 2 機関及び地域団体 8 機関で構成し、近畿地方整備局猪名川河川事務所が事務局を行っています。

目指すべき方向性
川とふれあい、人とふれあう、身近な川へ

基本目標

水遊びができる水質にしよう
～きれいな水で生き物がたくさんいる猪名川～

人が集まる水辺にしよう
～ゴミのない猪名川～

猪名川を学ぼう
～猪名川を学べる場をつくる～



写真-1 「水質一斉調査」



写真-2 「水環境パネル展」

2. 『猪名川流域「ええとこ」再発見～猪名川水環境交流会～』の開催

『猪名川流域「ええとこ」再発見～猪名川水環境交流会～』は、猪名川を知り・考えていただくことを目的に、未来ある子ども達の目線から水生生物調査等、河川環境に触れた感想などを発表していただき、「身近な故郷の川」について一層関心をもってもらうとともに、地域との連携・つながり作りを目的に開催しました。

(1) 開催概要

開催年月日	平成 25 年 11 月 30 日 (土)		
場 所	アステ川西 アステホール (兵庫県川西市 阪急川西能勢口駅前 アステ川西内)		
時 間	13 時 30 分から 15 時 (12 時 30 分会場)		
内 容	◆デジタル紙芝居「いながわのええとこ再発見」	◆猪名川の水環境について	
	◆子ども達の活動報告 (2 団体)	◆猪名川クイズ王決定戦	
	◆会場内後方にて水環境パネル展		
参加人数	106 名 (内訳：子供 30 名・大人 76 名)		



写真-3 会場風景 (ステージ)



写真-4 会場風景 (会場)



写真-5 会場風景 (パネル展示)

(2) デジタル紙芝居「いながわのええとこ再発見」

小学生の男の子と女の子、そして猪名川にちなんだキャラクターが、猪名川流域の上空を旅しながら、いながわの「ええとこ」をめぐる紙芝居を上映しました。

紙芝居(写真-6)では、「猪名川の源流」「妙見山(みょうけんさん)の湧水」「一庫ダム」「猪名川ドラゴンせせらぎ水路」等、猪名川流域内の「ええとこ」や「猪名川クリーン作戦」を紹介し、水の大切さや猪名川の水環境について学んでいただきました。

また、水環境交流会の後半に行う「猪名川クイズ王決定戦」のクイズの答えが紙芝居に隠されていることから、参加者たちは楽しみながら、また、真剣なまなざしで紙芝居に見入っていました。



写真-6 デジタル紙芝居

(3) 猪名川の水環境について

メイン司会者の伊丹コミュニティ放送のパーソナリティと猪名川河川事務所長との対話形式で、猪名川の水は40年ほど前には水質が悪い時期があったが、水質改善がすすみ、現在では鮎が棲めるほどきれいになっている状況等について、分かりやすく説明(写真-7)を行い参加者に理解していただきました。



写真7 猪名川の水環境についての説明

(4) 子どもたちの活動報告

子どもたちの活動報告では、「まちの遊学舎里山・あそび隊(池田市)」の隊員8名の子ども達から、「五月山に棲息する動・植物、昆虫、鳥の観察や余野川での水生生物調査」等、里山あそび隊の活動について報告(写真-8)が行われました。

また、「猪名川河川レンジャー」から、「猪名川水質一斉調査～神津小学校から広がる“身近で魅力あふれる猪名川”への取り組み～」と題して、神津小学校の生徒による猪名川水質一斉調査の状況が報告(写真-10)されました。

水環境に関する子ども達の活動や、子どもの目線から見た猪名川の感想や意見等に感心させられ、報告に聴き入っていた参加者からは盛大な拍手や賞賛の声が報告者に送られました。



写真-8 里山・あそび隊の発表



写真-8-1 里山・あそび隊隊員の皆さん



写真-9 会場からの質疑



写真-10 猪名川河川レンジャーの発表



写真-11 会場からの質疑



写真-12 発表を聴き入る参加者

(5) 猪名川クイズ王決定戦

交流会の最後は、猪名川の水環境にちなんだクイズ(○×勝ち抜け方式)で、子ども達に楽しみながら猪名川の水環境について学んでいただきました。

問題を読み上げる度に緊張し、回答の度に一喜一憂する子ども達の様子を見て、会場内からは笑いや声援が飛び交い、会場内は大盛り上がりでした。



写真-13 猪名川クイズ王決定戦の様子



(6) 猪名川ええとこマップの紹介

猪名川クイズ王決定戦の興奮冷めやまない中、水環境交流会で紹介した猪名川のええとこや、子ども達が活動した場所を示した「猪名川ええとこマップ」を紹介し、「もっともっと猪名川のええとこや活動場所をマップに増やしていこう!!」と参加者全員が確認し、盛大のうちに水環境交流会を閉会することができました。

猪名川分科会では、猪名川流域の統合的な水質管理のシステム構築を目指し、今後も様々な水環境に関する取り組みを行って参ります。楽しい猪名川、遊びたい猪名川を未来の子ども達に残すため、活動に参加してみませんか。



近畿「子どもの水辺」交流会に行ってきました

近畿地方整備局 地域河川課 今須 重明

1. 「湖の子」に心惹かれて

「びっくり わくわく こうりゅうかい びわ湖で思いっきり楽しもう！」のテーマに誘われて、去る11月23日(土・祝)に開催された第7回近畿「子ども水辺」交流会を見してきました。

交流会は、近畿地方の各府県、整備局、学生さん、NPOの方々等で実行委員会が組織され、今年で7回目の開催となります。

今回は、滋賀県の琵琶湖湖上での開催となり、近畿各府県から小中学生約200人(25団体)が集まり、それぞれの日頃の水辺活動を発表し、交流を深めました。

河川行政を携わる身としては、子供たちがどんな目線で川や湖などを見ているのか、興味津々であったのですが、もう一つ、出不精の私を心惹かせたのは、滋賀県内の全ての小学5年生が宿泊体験学習を行っている学習船「湖の子」への乗船でした。(私は滋賀県内の小学校を卒業しているのですが、私の小学生時代はそのような学習船は無く、ずっとこの船に乗れる今の小学生が羨ましかったのです。)



学習船「湖の子」

2. グループ別交流会

まず、私が見たのは、琵琶湖に浮かぶ船舶では最大となるピアンカで行われたグループ別交流会。子供たちからは、水辺での体験や日頃の活動などが報告され、絶滅危惧種に指定されていると言われる“カ

ワガキ”も、まだまだ沢山いるのだなと思うとともに、これを保全するために必至に頑張っておられる“カワオヤジ”の姿に敬服する思いでした。



各グループの活動報告と耳を傾ける子どもたち

3. 体験交流会

次は船を「湖の子」に乗り換え、まずはプランクトンウォッチングです。琵琶湖では琵琶湖大橋(琵琶湖の幅が最も狭くなる場所)より北を北湖、南を南湖と呼びますが、それぞれの水域の水を顕微鏡で覗いてプランクトンの観察です。

そして甲板上では、同じく北湖と南湖の透明度を、



プランクトンウォッチング



透明度観察

実際に器具を使って観察していました。

子どもたちは、プランクトンの数や種類、透明度などで、北湖と南湖の違いを実感していました。

こんな楽しくて面白い体験学習が、琵琶湖湖上の船内で出来る滋賀県内の小学5年生は幸せだなど、改めて思いました。

4. 全体交流会

最後は、再びピアンカに乗船し、参加者全員での交流会です。

交流会ではお題が2題出されましたが、ここでサプライズゲストとして、嘉田滋賀県知事がコメントーターとして登場。子どもたちは“生知事”の姿に驚きながらも知事のコメントにも熱心に耳を傾けての進行となりました。

まず、最初のお題は「今日の体験を通じて、琵琶湖についてどんなことを感じたか？」についてです。「大きかった」と答える子もいれば「思っていたより小さかった」と答える子もいました。「南湖の水は北湖に比べ汚いの、何故、下流の人は南湖の汚い水を飲んでいるのか？」というような、体験学習を踏まえた疑問なども出されました。

2つ目のお題は「琵琶湖を守るために、一番大事なことは何か？」でした。難しいお題なあと思いましたが、子どもたちからはどんどん手が上がり、様々な意見が出ました。そして、各グループ毎に最も大事なことは何か？ということで、一つの意見に集約され、5つのグループからそれぞれ5つの大事なこ

とが発表されました。

- ・地域の人と協力してゴミを拾う
- ・琵琶湖にしかない生き物を大事にする
- ・琵琶湖のゴミや外来魚の問題を、ポスターなどで知ってもらう
- ・琵琶湖が生きている、ということを忘れない
- ・琵琶湖を愛する気持ち

これらの意見に対して、嘉田知事は、自身の長年にわたっての琵琶湖の研究や「マザーレーク 21 計画」とも絡め、どれも大事で物事の本質をしっかりと見抜いた意見だと感心されていました。

5. おわりに

その後、引き続きピアンカ船内では体験交流プログラムが開催されました。

私が不謹慎にも真っ先に伺ったのが「琵琶湖の湖魚を使った伝統食の試食会」です。メニューは「アメノイオご飯」「エビ豆」「コアユの南蛮漬け」「シジミ汁」です。どれも美味でしたが、「アメノイオご飯」って・・・？

実は、秋（10月頃）に雨が降ると、産卵のため川に上がってくるピワマスのことを、アメノイオ（ウオ）と言うそうで、これをシイタケやにんじんなどと醤油だけでコメと炊き込んだ郷土料理だったので、滋賀県では鮎寿司という伝統食が有名ですが、これには独特の臭いという越なければならぬ壁があると言われますが、「アメノイオご飯」はどなたでも美味しく頂け、周りの参加者からも好評でした。

その他、ヨシ笛のコンサートなどもあり、色づいた周囲の山々を湖上より眺めながら有意義な一日を過ごすことが出来ました。開催にあたり、ご苦労されました滋賀県をはじめとする実行委員会の方々中でも実行委員の大学生の皆様にご敬服する次第です。

来年は京都府での開催となります。京都らしく“ほんなり”とした楽しい交流会となることを期待しています。

「ほな、また来年、京都にも寄ったとおくれやっしや。おおきに。」



かなじ 金出地ダム定礎式を挙

～地域の安全・安心のために～

兵庫県 県土整備部 河川整備課 三好 達士

1. 金出地ダム建設事業の概要

金出地ダムは、兵庫県赤穂郡上郡町金出地地内を流れる二級河川 鞍居川 に建設中の重力式コンクリートダムです。

鞍居川は、流域面積48.1km²、幹線流路延長12.8kmを有し、上郡町中心市街地付近で千種川に合流する河川で、流域上流部の丘陵地には、学術研究機関が立地し快適な居住環境や余暇機能などを総合的に備えた「播磨科学公園都市」があるほか、中流部には豊かな恵みを育む水田が広がっています。

鞍居川流域では、昭和51年9月洪水をはじめ、これまで多くの洪水被害が生じており、特に平成16年9月の台風第21号の豪雨では、411戸の家屋が浸水するなど大きな被害が発生しました。

また、鞍居川は上郡町の耕地等に対する水源として広く利用されていますが、夏期に度々、水不足や水涸れに見舞われており、特に昭和60年頃や「平成の大渇水」と呼ばれている平成6年頃は顕著な状況でした。

このため、兵庫県では洪水被害の軽減、流水の正常な機能の維持を図るため、金出地ダムの建設を推進しています。

- ・事業箇所 上郡町金出地地内
- ・事業期間 平成2年度～平成27年度（予定）
- ・ダムの諸元

形 式：重力式コンクリートダム
洪水調節方式：自然調節方式
堤 高： 62.3m
堤 頂 長：184.0m
総貯水容量：470万m³
有効貯水容量：440万m³

- ・総事業費 約170億円



図-1 金出地ダム完成イメージ図

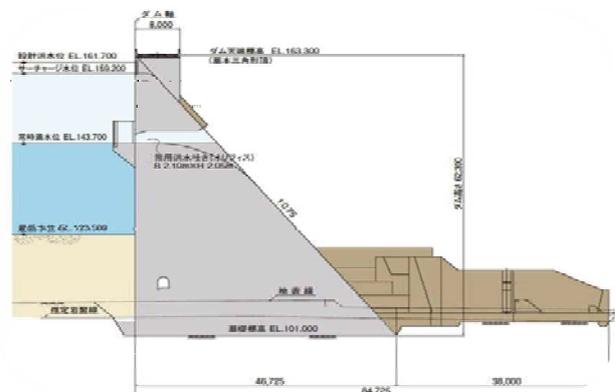


図-2 金出地ダム標準断面図

2. 金出地ダム定礎式の開催

平成25年12月1日（日）、ダムが堅固にして長久ならんことを祈願するため、金出地ダム建設現場（写真-1）において、定礎式を挙りました。

定礎式は、建物の安泰を祈る建築儀式の一つです。

ダムの場合、本体コンクリートの本格打設に先だつて、ダム本体の中心部に礎石を埋納します。

当日は、地元の皆様、山口壯衆議院議員、兵庫県及



写真-1 金出地ダム全景

び上郡町議会の皆様、国土交通省、兵庫県、上郡町の行政関係者、さらに調査や工事に携わってこられた皆様方など約180人の皆様にご出席いただきました。

式では、山本 西播磨県民局長の式辞に始まり、山口 衆議院議員、越智 国土交通省水管理・国土保全局水資源部長から祝辞いただいた後、定礎の儀（写真-2、3、4）が執り行われました。



写真-2 鎮定(ちんてい)の儀

礎石を固めるためモルタルを礎石の基礎に入れる儀式
工事を進める道をつけるという意味がある



写真-3 齋鍍(いみごて)の儀

礎石の周りのモルタルを「こて」で均し固める儀式
鎮定の儀でつけられた道を均すという意味がある



写真-4 齋植(いみづち)の儀

「木植」で礎石の四隅を打ち据える儀式
齋鍍の儀でつけられた道を更に強固にするという意味がある

続いて、上郡小学校のみなさんの将来の夢や願いが書かれた「メモリアルストーン」(写真-5)が礎石の周りに並べられ、「コンクリート放出」のかけ声を合図に、バケットからコンクリートを放出(写真-6)し、礎石とメモリアルストーンを埋納すると共に、くす玉開披(写真-7)で定礎を祝いました。

その後、施工業者により、「安全施工に留意して一日でも早く無事に完成させること」を表明する工事施工決意表明が行われ、遠山上郡町長の万歳三唱の後、参加者全員による記念撮影(写真-8)をし、式は無事終了しました。

兵庫県では、平成27年度末の事業完成を目指し、ダム本体工事を鋭意進めて参ります。



写真-5 メモリアルストーン(上郡小学校のみなさん)



写真-6 コンクリート打設



写真-7 くす玉開披



写真-8 記念撮影

維持管理に関する技術支援について

近畿地方整備局 地域河川課 西村 信彦

1. ダム貯水池内の橋梁の損傷

維持管理に関する技術支援については、前回の“さらさ”秋号でお知らせしたところですが、早々、自治体より最初の支援要請ありましたので、その概要を報告致します。

要請は、本年3月に竣工式を行い「おおたき^{りゅうじんこ}龍神湖^{*}」と命名された、大滝ダムの貯水池に架かる北塩谷橋に関するもので、ダムを管理する紀の川ダム統合管理事務所を通じて、管理者である奈良県川上村から寄せられたものでした。

河川部では、これまで河川の附帯工事等で新橋の架橋は経験してはいますが、その維持となると知見はあまり有していません。ともすると「道路部にも支援窓口がありますからそちらに相談願います」と縦割り行政的な対応を執ってしまいがちですが、ここはワンストップ行政サービスとして、河川部が支援要請を受け、河川部から道路部に協力要請を行うことで対応しました。

^{*}大滝ダムのダム湖名は、公募により、地域を特定しやすい「大滝」の文字と、地域の人びととの永く変わらぬ源流吉野川への畏敬の念から「龍神」が205作品の中から選ばれ、大滝ダムの竣工式で披露されました。



龍神湖に架かる北塩谷橋

2. 技術支援要請の内容

北塩谷橋は、ダムサイトから上流約2kmに架かるプレテンション床版1連+3径間連続有ヒンジラーメンからなるPC橋で、昭和60年に竣工しています。今回の支援要請は、右岸橋台のコンクリートにひび割れが見られることから、その補修方法と緊急性の判断を仰ぎたいというものでした。



橋台コンクリートのひび割れ状況

見られることから、その補修方法と緊急性の判断を仰ぎたいというものでした。

3. 要請に対して行った技術支援

河川部から協力要請を受けた道路部では、早速、近畿技術事務所とともに現地調査が行われました。道路部ではこれまでも、管内の道路橋の損傷の補修や予防的な修繕などにより長寿命化を図るため、高度な技術力や専門的な判断を必要とする場合には、学識経験者（橋梁ドクター）から技術的助言・指導を受けてきた

ことから、今回の要請に対しても、橋梁ドクターに現地で直接、助言・指導を受けることになりました。

現地調査は、橋梁ドクターとして京都大学の河野広隆教授にお願いするとともに、整備局から河川部、道路部、紀の川ダム統管理事務所、近畿技術事務所、要請者である川上村、それに奈良県吉野土木事務所も



現地調査



現地調査

参加して行われ、調査終了後に河野教授から講評という形で、助言・指導を頂きました。

その内容は、ひび割れについては、「施工当時のジャッキアップ用切り欠け部を、あとでモルタルで埋めた部分が、何らかの理由で異常膨張したものと考えられる。」ということでした。

対策方法としては、「早急な対策が求められるような状況ではないが、後埋め部のモルタル全体を除去し、下部工躯体コンクリートに異常がないか確認した上で、新しいコンクリートに打ち替えるのが良い。」ということで、結論としては、「橋梁上部工自体は良好な状態で殆ど損傷が見られない。特に緊急に対応すべき損傷や優先度を高めて対応すべきものではなく、今後の通常の維持管理の中で対応していけばよい。」というものでした。

講評の際には、川上村の栗山忠昭村長も同席され、迅速な対応にお礼の言葉を頂きました。

なお、調査結果については、道路部によって報告書がまとめられ、紀の川ダム統管理事務所を通じて、川上村と吉野土木事務所に後日報告されました。

4. 整備局内での連携による技術支援

今回の川上村からの支援要請は、道路部と近畿技術事務所からの全面的なバックアップにより対応が出来たものです。今後とも河川部だけでは対応出来ない事案等の支援要請があった場合は、整備局内の道路部や港湾空港部、あるいは国土交通省水管理・国土保全局や国土技術政策総合研究所、(独) 土木研究所とも連携して対応させて頂きたいと考えています。



講評（正面中央が河野教授）

平成 25 年度近畿河川技術研修（ご案内）

近畿地方整備局 地域河川課 辻田 英幸

1. はじめに

近畿地方整備局では、管内の2府4県の府県機関などと共催のもと、地域の取り巻く課題に対して、実務的な河川技術と知識の取得を目的に、特に若手職員の技術力の向上が図られるように、平成17年度から当研修会を開催し、今年度で9回目となります。

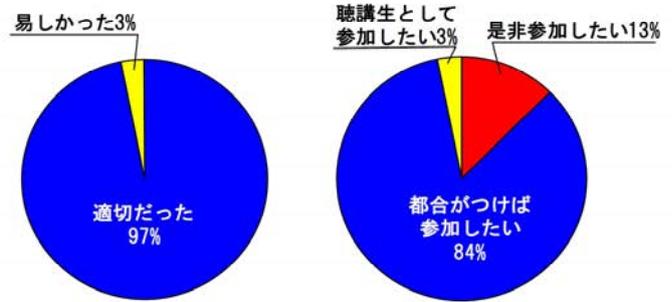
2. 研修内容について

研修では、毎年、時事的な課題等を中心に研修テーマと分科会テーマを定め、講師による講義、研修生による事例発表や分科会討議、パネルディスカッション等を行っています。



研修生による事例発表や分科会討議、パネルディスカ

昨年年度の研修参加者のアンケート結果によると、研修全体の難易度については、97%が「適切だった」と評価しています。また、次回の参加意思についても、「是非参加したい」「都合がつけば参加したい」を合わせると97%が、参加希望を持っているとの結果でした。こうしたアンケート結果を基に、本年も実行



研修の難易度について

次回の参加意思

委員会を組織し、研修の企画・立案を行いました。

3. 研修テーマ

本年の実行委員会は9月10日に発足させ、早々先ずはテーマについて議論しました。幾つかのテーマ案が上がる中で、「維持管理」に係るものがありました。これは、昨年12月の中央道笹子トンネル事故を契機に、平成25年を「社会資本メンテナンス元年」と位置づけ、インフラの老朽化対策についての総合的・横断的な取組が始められているという背景がありました。

しかし、9月15日～16日に近畿地方を襲った台風18号は各地で大きな被害をもたらしました。もちろん「維持管理」も重要ですが、台風18号では、各防災担当機関で洪水予報や土砂災害警戒情報の発令準備や被害の情報収集などに追われた一方で、経験したことの無いような貴重な教訓も得ました。そのため、本年の研修テーマは「経験のないような気象現象にどのように対応していくのか」とし、台風18号の貴重な経験を風化させず、しっかりと後世に伝え、今後も発生し得るこうした危機的な洪水に直面した際に、迅速、且つ、冷静沈着な対応が図られるようにとの思いで設定しました。

是非、多くに皆様にご参加をいただき、防災や河川管理の充実や強化にお役立ていただきたく、ご案内申し挙げます。

平成 25 年度 近畿河川技術研修 聴講のご案内

1. 日 時 平成 26 年 1 月 29 日 (水) ～ 30 日 (木) 2 日間
(受付は第一日目：9:30～10:00、第二日目：13:20～13:50 (予定))
2. 場 所 大阪合同庁舎第 1 別館 (近畿地方整備局と同じ敷地内です)
大阪府中央区大手前 1-5-44 電話 06-6942-1141 (代表)



3. 研修科目 (予定)
(第一日目) 午前：講義
午後：事例発表 (整備局、福井県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県)
(第二日目) 午前：分科会 (研修生のみ)
午後：特別講座、パネルディスカッション
4. 受講予定人員 150 名 (別途、研修生 (行政職員等) 約 50 名が参加予定) どなたでも参加できます
ただし、2 日目は 13 時 50 分からの受講となりますのでご注意ください。
5. 参加費 無 料
6. 申込み方法 以下の内容を記して、Eメールで申し込み下さい。

平成25年 月 日

申込機関名： _____ 所 属： _____ 担当者氏名： _____
住 所： _____ T E L： _____ F A X： _____

氏 名	フリガナ	年 齢	所 属	役職名	E-mailアドレス	受 講		備 考
						1日目	2日目	

* 送付先 近畿地方整備局 河川部 地域河川課 西村 信彦・中村 大輔 (E-mail chkas01@kkr.mlit.go.jp)
* 申込期限：平成 25 年 12 月 25 日 (水) 18 時必着 (ただし、期限前に定員に達した場合は期限前でも締め
切らせていただきます。お早めにお申込みください)

6. その他
本研修は「土木学会 CPD プログラム」を申請中

津波浸水想定における津波浸水深と基準水位について

近畿地方整備局 地域河川課 松岡 一成

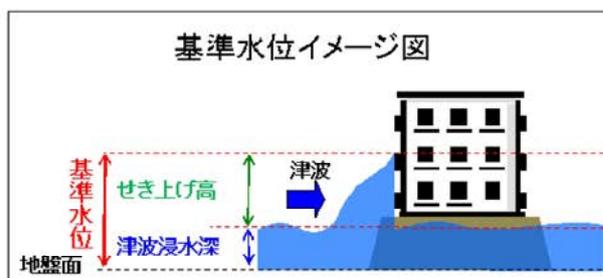
1. 津波浸水想定について

東日本大震災を契機に、最大クラスの津波が発生した場合でも「なんとしても人命を守る」という考え方に基づき、ハード・ソフトの施策を組み合わせた「多重防御」による「津波防災地域づくり」を推進していくことを基本理念とした「津波防災地域づくりに関する法律」（以下、津波まちづくり法と記載）が、平成 23 年 12 月に施行されました。この津波まちづくり法に基づき、現在、近畿各府県では、市町村が作成するハザードマップや、津波防災地域づくりを推進するために必要な津波浸水想定（最大クラスの津波が悪条件下で発生した場合に浸水するおそれがある土地の区域と、浸水した場合に想定される水深）の公表に向けて検討が行われ、既に和歌山県と大阪府では公表されています。



2. 津波浸水深と基準水位について

津波浸水想定で示される津波浸水深は、右図に示すように、建物等の障害物に津波が衝突したときのせき上げ高が考慮されていないため、津波浸水深以上の建物の階層であったとしても、せき上げによる浸水により人的被害が発生する恐れがあります。そのため、津波災害警戒区域の指定などの津波防災地域づくりを推進するにあたっては、別途、津波避難施設の避難場所の高さ方向の情報として、せき上げ高を加味した基準水位が必要となります。



基準水位（ H_{max} ）の算定は、府県による津波浸水想定作成時に各メッシュで算出されるフルード数（ Fr ）と浸水深（ h ）が解れば、以下の式で算出することが可能です。

$$H_{max} = \max \left[h \left(1 + \frac{Fr^2}{2} \right) \right]$$

3. 避難施設の指定等における基準水位の必要性

津波からの避難は、津波浸水区域外に避難することが基本です。しかし、津波到達までの早さや地形上の制約から、津波の到達時間までに津波浸水区域外に避難することが困難な地域や、逃げ遅れた避難者は、周辺の高い建物等に避難せざるを得ません。そのため、津波まちづくり法では、避難ビルや避難タワーの指定等を行い、緊急的な避難場所を確保することとしており、指定等に際しては基準水位の高さを満たしていることが必要となります。

イベント情報

“雨といきもの展”を開催しています



雨は、洪水や土石流などの脅威をもたらし、大切な生命や財産を奪うことがあります。一方で、飲料水などの生活用水や田畑を潤す農業用水、産業を支える工業用水の源となるなど、私たちにとっては欠かすことの出来ない天然資源です。

では、私たち人間以外の生きものは、雨とどのように関わりながら過ごしているのでしょうか。色々な生きものの立場から雨をみてみると、雨を待っているカエル、雨粒をはじく羽をもつチョウ、川の増水でつくられた場所を好む魚や植物、みんな雨と上手につきあいながら暮らしているのです。

“雨といきもの展”では、生きものにとって雨の恵みをテーマにした展示を、日本各地を旅する3匹の「アマツブ楽団」が案内する構成になって

います。

日本の雨の特徴、雨に関する研究成果などのパネル、雨と生きものに関する絵本展示やクイズ、雨音の楽器などの体験展示もあります。

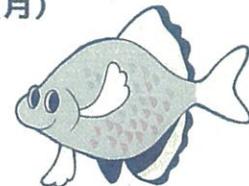
そして、注目は映像で降ってくる雨の言葉と触れ合うインタラクティブ展示“ことばあめ”。お子様でも「アマツブ楽団」と一緒に、ふだんと違った視点から雨を眺め、雨とのつきあい方について考えて頂くことが出来ますので、是非、お出かけ下さい。

なお、この展示は、大学の学生や教員、気象キャスター、展示プランナー、国土交通省の職員等の有志のメンバーからなる「水の巡回展ネットワーク (JAWANET)」によって企画・開発されています。

JAWANETでは、水に関する様々なテーマの展示ユニットを開発し、それらを各地の展示館に巡回しています。また、巡回の機会を利用して調査を行いながら、多くの場所で活用できる、汎用性の高い、楽しく学べる展示を想像していくことを目的に活動しています。

- 開催館 = 川の駅 はちけんや にぎわい Xing ギャラリー
- 開催期間 = 平成 25 年 11 月 27 日 (水) ~ 平成 26 年 1 月 20 日 (月)
- 休館日 = なし ●開館時間 = 10:00 ~ 17:00

- 主催 = 国土交通省近畿地方整備局、大阪府
- 企画制作 = 水の巡回展ネットワーク
- 協力 = NPO 法人 気象キャスターネットワーク、ファン ザ ミュース、土木研究所 自然共生研究センター、東京学芸大学 環境教育研究センター、東京学芸大学 グラフィックデザイン研究室、九州産業大学 芸術学部メディアラボ 331



イタセンバラ
Acheilognathus longipinnis (コイ科)



- 【交通】 ● 京阪天満橋駅 1 番出口または 17 番出口から徒歩すぐ
● 地下鉄谷町線天満橋駅 2 番出口から徒歩 5 分

その他のイベント情報

平成26年1月～3月

エリア	イベント名	河川名	開催日	場所	問い合わせ先	概要・見どころ	交通機関
滋賀県	淡海の川づくりフォーラム	-	2月16日 (日) 9:30開会	コラボしが21 三階大会議室 (大津市打出浜2番1号)	滋賀県土木交通部 流域政策局流域治水政策室 ☎: 077-528-4291 FAX: 077-528-4904 E-MAIL: ryuiki@pref.shiga.lg.jp	淡海の川づくりフォーラムでは、“川や水辺と共生する暮らし”、“川や水辺と私たちのいい関係”について、川や水辺にまつわる活動を実践されている皆さんとともに、公開選考方式のワークショップを通じて、それぞれの交流の中で議論を深め、探ります。 昨年度は、県外から公益財団法人京都地域創造基金(母なる川・保津川基金)に参加いただいたり、一昨年度はスペシャルセッションとして、兵庫県総合治水課の武庫川の取組を紹介いただいたりと、県外の方からの参加もいただいています。 滋賀県流域政策局流域治水政策室の下記HPでこれまでの記録を掲載しています。また、参加団体募集等の詳細も下記HPにて公表していきます。 http://www.pref.shiga.lg.jp/h/ryuiki/	(最寄駅) 京阪電鉄石場駅 徒歩約3分 JR 琵琶湖線膳所駅 徒歩約15分 JR 琵琶湖線大津駅 徒歩約20分
	流域治水シンポジウム	-	12月23日 (月・祝) 13:00開会	コラボしが21 三階大会議室 (大津市打出浜2番1号)	滋賀県土木交通部 流域政策局流域治水政策室 ☎077-528-4291 E-MAIL: ryuiki@pref.shiga.lg.jp	県民と行政みんなが取り組む「しがの流域治水」について、参加者のみなさんと一緒に考えるため、流域治水シンポジウムを開催します。 今年で7回目の開催です。 滋賀県流域政策局HPでこれまでの記録を掲載しています。 http://www.pref.shiga.lg.jp/h/ryuiki/sinpojiumu-top.html	(最寄駅) 京阪電鉄石場駅 徒歩約3分 JR 琵琶湖線膳所駅 徒歩約15分 JR 琵琶湖線大津駅 徒歩約20分
京都府	鴨川探検！再発見！第34弾「水辺の野鳥観察会」	鴨川	2月23日 (日) 10時～12時	鴨川 (北山大橋周辺)	京都府建設交通部河川課 ☎075-414-5287 E-MAIL: kasen@pref.kyoto.lg.jp	歴史文化の学習会や自然観察会を通じて、鴨川の魅力を再発見出来ます。 第34弾は、鴨川に飛来する野鳥の観察を行います。	(最寄駅) 地下鉄北山駅下車 徒歩10分
奈良県	大和川一斉清掃	大和川水系各河川	3月2日(日)	県内各地 (開催前に奈良県河川課ホームページに掲載予定)	奈良県県土マネジメント部河川課 ☎0742-27-7504	国や大阪府、市町村、関係団体等の皆様と連携し、大和川の流域が一体となった美化活動として、「大和川一斉清掃」を実施します。	県内各地
和歌山県	仙人風呂	大塔川	12月～2月末日	川湯温泉 (和歌山県田辺市本宮町)	熊野本宮観光協会 ☎0735-42-0735	「川原を掘ればちどころにお湯が湧く！」大塔川をせきとめた野趣あふれる大露天風呂です！※ 期間中は基本的に無休ですが、降雨量等によりご利用いただけない場合がございます。荒天のあとはお電話で確認のうえお越しください。	JR紀勢本線新宮駅より バスで約60分

※予約が必要なものもありますので、事前に問い合わせ先やホームページ等でご確認のうえお越し下さい。

「さらさ」2013冬号の編集を務めさせていただきました。投稿していただいた方々におかれましては、お忙しい中ご協力いただきありがとうございます。紙面を借りて御礼を申し上げます。
編集に当たり、日常の業務では、関わることのない方々と出会い、お話をさせていただきました。貴重な体験をさせていただいたな、と「さらさ」復刊に感謝しております。
「さらさ」での“つながり”をさらに拡充し、今後も、情報交換や交流を緊密に行い、平成25年台風第18号などによる被害からの早期復旧・復興に、整備局管内一丸となって取り組んでいきたいと思っております。今後ともよろしくお願いいたします。
なお、さらさでは、地域のイベント、事業紹介等の情報発信を随時お待ちしております。

編集担当 和歌山県 県土整備部 河川課 井ノ本 浩正

<http://www.wakayama2015.jp/>



平成27年「紀の国わかやま国体」への準備が進む和歌山県庁

2013年12月No.84冬号

編集・発行：三重県、福井県、滋賀県、京都府、京都市、大阪府、大阪市、堺市、兵庫県、神戸市、奈良県、和歌山県、国土交通省近畿地方整備局
問い合わせ：国土交通省 近畿地方整備局 河川部 地域河川課
大阪市中央区大手前1丁目 5-44 TEL(06)6942-1141